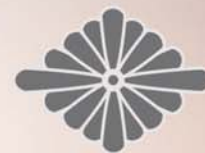


ところ

高知県立美術館
能楽堂



とき

平成二十七年
八月一日

午後二時 開演

午後一時半 開場

尾上菊之丞
茂山逸平
二人会

逸青会

高知
公演

Vol.2

けもの三題 ～獅子・狐・象～

◆主催 ごふく美馬 ◆協力 逸高会

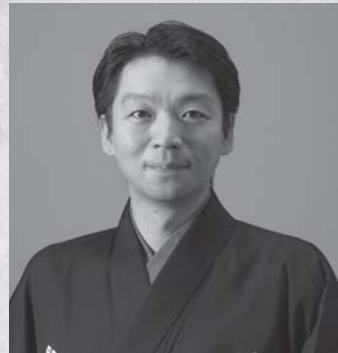
動物たちの おかしくも 美しい 物語



尾上 菊之丞

KIKUNOJYO ONOE

日本舞踊尾上流三代家元・二代目尾上菊之丞の長男として生まれる。2歳から父に師事し、81年「松の緑」で初舞台(5歳)。90年に尾上青楓の名を許されて以降、日本舞踊家として本格的に活動を開始。歌舞伎俳優その他、幅広いジャンルのアーティストとのコラボレーションなどにも積極的に挑戦している。2011年尾上流四代家元、三代目尾上菊之丞を襲名。



茂山 逸平

IPPEI SHIGEYAMA

4歳の時「業平餅」の童にて初舞台。その後、「千歳」「三番三」「釣狐」を披く。94年に茂山宗彦、茂と「花形狂言少年隊」を結成。2000年より「TOPPA!」を、茂、童司らと共に主催し、活動。その一方で、NHK朝の連続テレビ小説「京ふたり」「オードリー」「ごちそうさん」他、舞台・CM等に出演するなど幅広く活躍。



尾上 京

MIYAKO ONOE

二歳より二代目尾上菊之丞(現、尾上墨雪)に師事。尾上流師範。京都・先斗町にて日本舞踊教室を主宰。古典のみならず創作舞踊などにも意欲的に活動。日本舞踊協会新春舞踊大会で、大会賞、会長賞受賞。



茂山 七五三

SHIME SHIGEYAMA

4歳の時 狂言「業平餅」の子方にて初舞台以来、「三番三」「釣狐」「花子」「狸腹鼓」などを次々と披く。父、四世千作、叔父二世千之丞亡き後の茂山一門を兄千五郎と共に支える。茂山宗彦、逸平の父。

「逸青会」とは

尾上菊之丞と狂言師茂山逸平が、舞踊と狂言の新たな可能性を求めて立ち上げた二人会。高知での公演は平成23年以來4年ぶり二度目となる。

舞踊

連獅子(れんじし)

能の「石橋」を舞踊化した作品で、百獣の王たる獅子の様をみせる石橋物(しゃっきょうもの)の代表作。前段では獅子の謂れを説き、親獅子が仔獅子を幾度も谷底へ蹴落とす厳しさを見せて、親子の真の情愛を表現する。後段は勇ましい獅子の狂いの舞となる。

狂言

作:井口海仙

宗旦狐(そうたんぎつね)

宗匠に化け、あちらこちらの茶会に現れる古狐。見兼ねた茶人の一人に化けを見顕され、許しを請う為に語る屋島の戦物語。古典狂言「釣狐」に倣った演出や狐の態で舞う能の「屋島」の仕舞、道具を一切使わずにお茶を点てる狂言風の空点前など見所満載の新作狂言です。

新作
舞踊狂言

岐佐の鼻(きさのはな)

遠く異国から遙々とやってきた巨大な動物。将軍様に献上の象を泊めて呼び物にしたいと考えた宿屋の亭主。しかし異人と象の扱いに困惑するばかり。言葉の通じないもの同士が何を言い何を欲しているのか? 難難辛苦? 四苦八苦? の会話もさることながら、大きな象が動く度、宿屋の中は大わらわ!



ところ 高知県立美術館 能楽堂

平成27年

8月2日(日)

PM2:00開演 (PM1:30開場)

入場料

◎S席 / 7,000円
◎A席 / 6,000円
◎B席 / 5,000円
◎C席 / 3,000円
※C席は小学生以下対象

演目

連獅子 菊之丞 京
宗旦狐 逸平 七五三
岐佐の鼻 菊之丞 逸平

チケット取り扱い 一般発売 6月1日(月)より(C席はこぶく美馬での取り扱い)

●こぶく美馬 / Tel.088-824-5298

●高知県立美術館ミュージアムショップ / Tel.088-866-8118